

東京都第7区 喜多見の「農」を守れ！ 農の風景育成地区

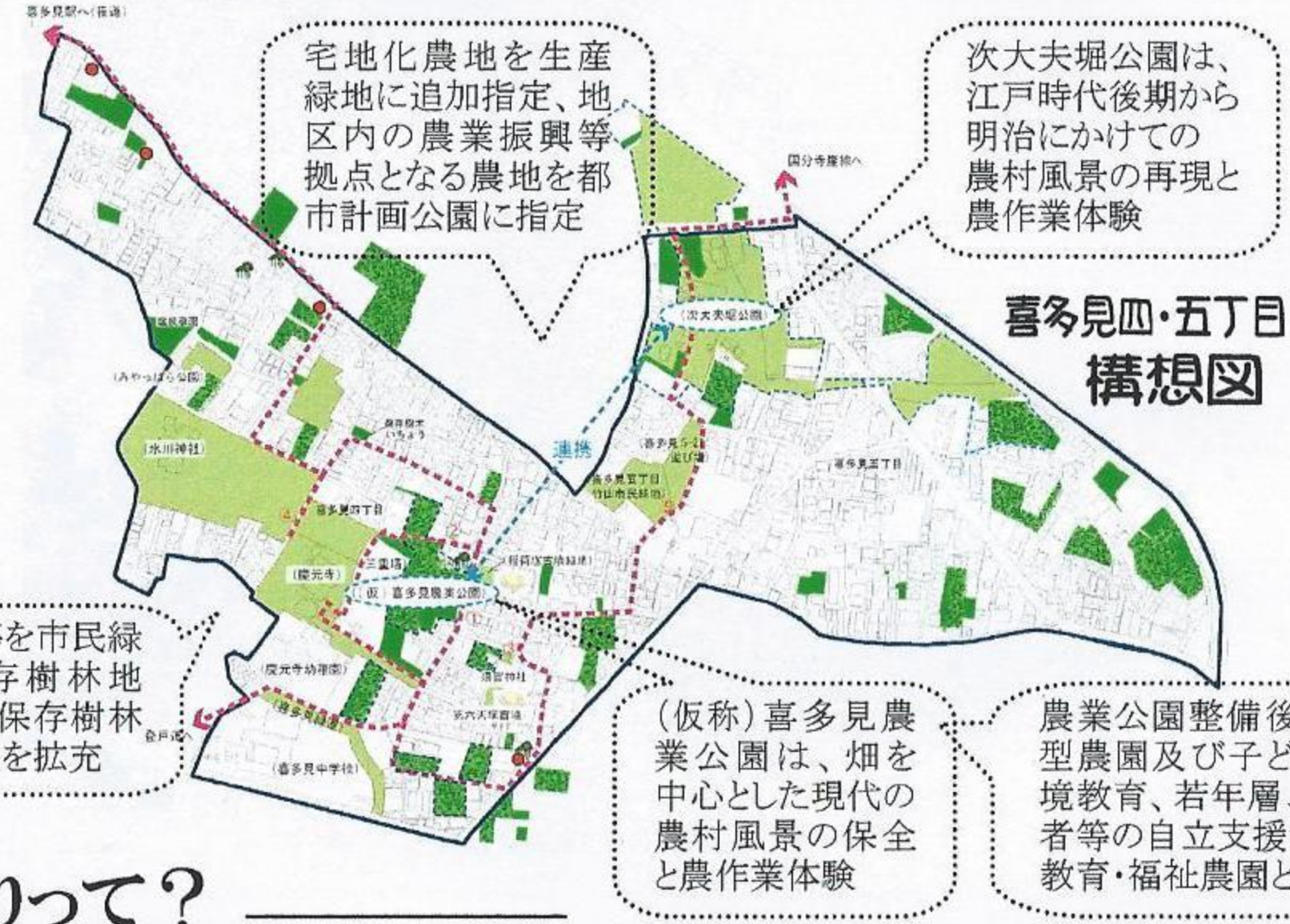
五月、喜多見四・五丁目全域が東京都の「農の風景育成地区」に指定されました。喜多見では富士山の世界遺産登録に匹敵することと歓迎されています。世田谷区みどり政策課に聞きました。

— どのような点が評価されたのでしょうか？

「地区内のエリアからも農の風景が感じられること、農地や屋敷林に加え寺社や史跡など風景を構成する文化的な要素が集まっていること、地域風景資産があること、そして世田谷区農地保全方針が都内だけでなく全国的にも進んでいることなどです。国や都、他の自治体職員が続々と喜多見へ視察に来ています」

— 農の風景をどう育てていくのか？

「地区全体が農の雰囲気を感じ出すような町になることが理想です。まずは農業を永く続けていただくこと、そのために区では、農産物の区内流通の拡大や、農業の魅力発信などを進めています。農業が続けられない場合には、都市計画公園内だけになりませんが、区が取得し、農業公園として活用します。また、屋敷林を保全するため、保存樹林地の面積要件を千㎡以上から農地保全重点地区内では二百㎡以上に緩和しています。また、道路沿いを生垣や緑化するなど、お住まいの皆さまの協力も重要ですよ」



— 税制上の優遇措置が受けられる制度は？

「樹林地を市民緑地として開放していただいたり(面積要件三百㎡以上)、特別緑地保全地区に指定されると固定資産税や相続税の減免が受けられます」

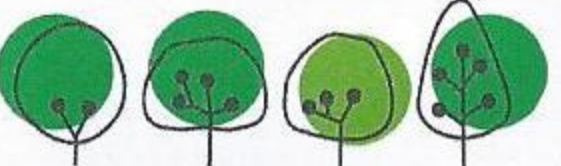
— 今後の計画は？

「二三年間で『農業・農地を活かしたまちづくり事業』を進めます。今年度は地域の声を聞き、来年度は少しずつ具体化し、農業公園の設計にも取り掛かります。再来年度は農業公園の拠点を一部整備していきます」

— どのように動き出すんですか？

「お住まいの地域を期待しています。」

FIELD



農を活かしたまちづくりって？

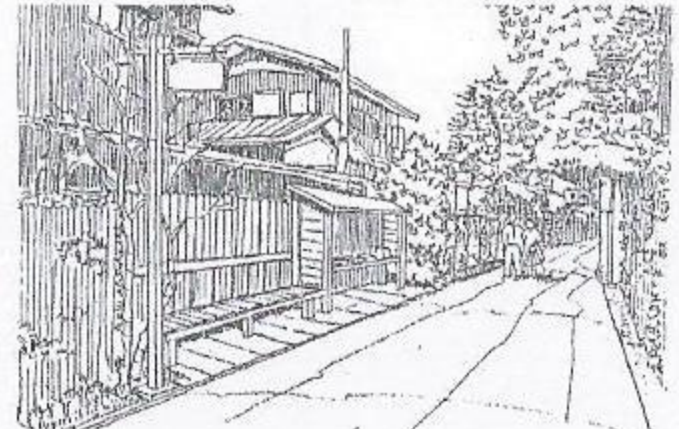
なかなかイメージがわからないので、1987(昭和62)年世田谷区発行『世田谷らしい風景の創造をめざして』という報告書を見ました。多くのページを割いて、喜多見をモデルにした風景計画がまとめられ、たとえば以下のようなデザイン画と説明が掲載されています。このようなものも参考にみんなでワイワイ語り合えると良いですね。



車道をしぼることで車のスピードをおさえるとともに、しぼり部分をアクセント景観として創る。実質的には歩行者のための快適な喜多見地域のシンボリック・モールとする。



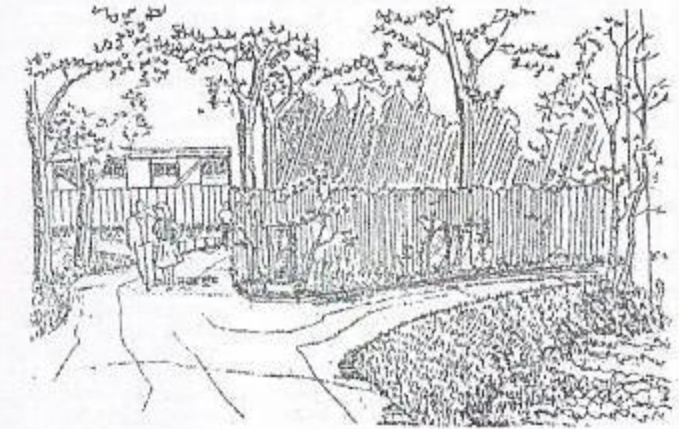
樹木の周囲に生垣や低木を植栽することで、樹林地を強調する。ビューポイントの近くに樹林地と同一種の植栽を数本施すだけで畑地と樹林地につながり感をもたせることができる。



木製ベンチと野菜の無人スタンドを設けて憩いの場・ふれあいの場を演出する。舗装を石畳とし、夏は木陰、冬は日だまりができるように果樹や郷土木を植栽し、落ち着いた空間を創る。



砦台の地形の眺望をさえぎる電柱、建物等の構造物は数本の中木類を植栽して見えないようにするか、地下埋設をすすめる。畑地と道路の境界部には植栽を施す。



手前から動線上に同一樹種の樹木を配列し、多摩川へ誘導する。導標には昔ながらの「道しるべ」をデザインして、雰囲気づくりをねらう。

ポポポポ

新聞

[Ponpoko News]

第 52 号



=発行=

2013年8月4日

喜多見ポポコ会議
www7.ocn.ne.jp/~ponpoko/

PEOPLE

慶応義塾大学卒のプロレスラー

三富政行さん



興行 8/17,18,24,9/23 <http://www.ddtpro.com/>

喜多見小学校出身、子どもの頃は次大夫堀公園や須賀神社で鬼ごっこやキャッチボールをしたり児童館で工作にハマっていた三富政行さんがこの春、プロレスラーとしてデビューしました！

—— プロレスラーになろうと思ったきっかけは何ですか？

「中学生の頃、プロレス中継を見たのがきっかけで、プロレスラーの諦めない気持ちや何度も立ち上がる強い精神に感化され、大のプロレスファンになりました。大学4年間、全力で学生プロレスをやったことで、世界が広がり、多くの人との“縁”が生まれました。そして、このまま終わってはもったいない、夢の続きを見たい！今度は多くの人に感動と勇気を与えてプロレスに恩返ししたい！と強く思うようになり、プロ入りを決意しました」

—— 試合で見てほしいポイントは？

「とにかく諦めずに立ち上がる姿を見てほしいです。立ち居振る舞い全てに“生き様”を込めて試合している姿を見てください」

SHOP

喜多見駅から狛江方面へ徒歩2分

なが田



狛江市岩戸北2-19-20、電話3489-4246、火定休

小田急線沿いにひっそりとある和風の居酒屋さん、ガラス越しに見るといつもお客さんでいっぱいです。思い切って入ってみることにしました。

カウンターには大皿に盛られたお料理が15~16種類並んでいます。ご主人の永田七朗さんに伺うと、昭和63年の開店当初は、奥の厨房に入っていたのですが、お客さんと話をしたくて、開店の夕方5時半にはお料理を全部仕上げて大皿に盛り付けるようになったそうです。お料理をいただくと、見た目も味も工夫を凝らして丁寧に作られているのがよく分かります。朝から7~8時間かけて作るそうで、その料理がなくなったら、そこでお店もおしまい。「他のお店に負けたくないと思うことは、一所懸命つくっているということだけです」とご主人。

リピーターが遠くからくるそうですが、お店を手伝う学生も、開店以来、狛江市の小学校出身の先輩から後輩へ代々バトンタッチされているそうです。幸せなひと時を「なが田」でどうぞ。

HISTORY

実は江戸氏の親戚だった

平将門



築土神社旧蔵の平将門像

喜多見の歴史を語る際に欠かせない江戸氏は、桓武天皇や、平姓を授けられ東国に土着した高望王の流れをくむ名門で、親戚には平将門や平清盛もいます。

江戸氏につながる良文は、甥の将門が領地をめぐる一族の争いで国香らに襲撃された際に援護する間柄でした。将門はその後朝敵となり討伐

されましたが、江戸氏は将門を剛勇無双の祖神

として崇め、民衆も、関東の政治改革をはかり命をかけて民衆たちを守ったと語り継ぎました。将門を合祀した神田明神は、戦国武将が武運祈願するところとして、江戸時代には江戸総鎮守として重視されることになりました。

桓武天皇—高原親王—高見王—(平)高望王—国香—貞盛—維衡—正度—正衡—正盛—忠盛—清盛—良兼—良持—将門—良文—忠頼—将恒—武基—武綱—重綱—重隆—(河越)能隆—良茂—良持—将門—良正—重継—(江戸)重長

将門伝説が定着したのは江戸氏の働きによるものという説もあります



NATURE

河床整備後の経過

生きものが回復



大きなコイを追い込みました

5月18日(土)、春の野川ガサガサを行いました。工事後、まだ草の茂みがなく心配しましたが、たくさんのオイカワの稚魚、大きなナマズ、オタマジャクシのようなナマズの稚魚、ガサガサ初のカマツカ、モクズガニなど計12種類187匹を収穫しました。喜多見大橋下流で湧水も確認し、野川が湧水の川だと実感しました。

INFORMATION

▶ 外来植物アレチウリ除去

【日時】 8月6日(火) 9:00~11:00

▶ 野川の事前調査&ごみ拾い

【日時】 8月12日(月) 7:00~9:00

▶ 夏の野川ガサガサ

【日時】 8月17日(土) 10:00~12:00

【持物】 長靴、(あれば)玉網、バケツ

【申込】 喜多見児童館 tel. 3417-9151

すべて集合場所は次大夫堀公園築山横のベンチ